



Education ExChange Community

「EEC 唐丹希望基金 2012」5月報告書

高 館 千 枝 子

〒028-3603

岩手県紫波郡矢巾町西徳田 7-7

Tel/fax : (81) 019-697-3851

Mail:tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

とうに 岩手県釜石市立唐丹中学校入学式

4月6日に入学式が挙行され、新入生16名が、緊張した面持ちながら、胸を張って堂々と式場に入場しました。担任の呼名に元気に返事をするなど、強い意欲を感じました。

入学生のみなさんは地域にとっての大切な宝です。

子どもたちの明るい笑顔が 元気な声が 真剣に粘り強く取り組む姿が地域の勇気となります。

胸を張り 前を向き 笑顔を忘れず これからの中学生生活を

送ってほしいと心から願っています。(文責：釜石市立唐丹中学校 校長 佐藤和信)



—唐丹の子ども達へ贈る言葉—

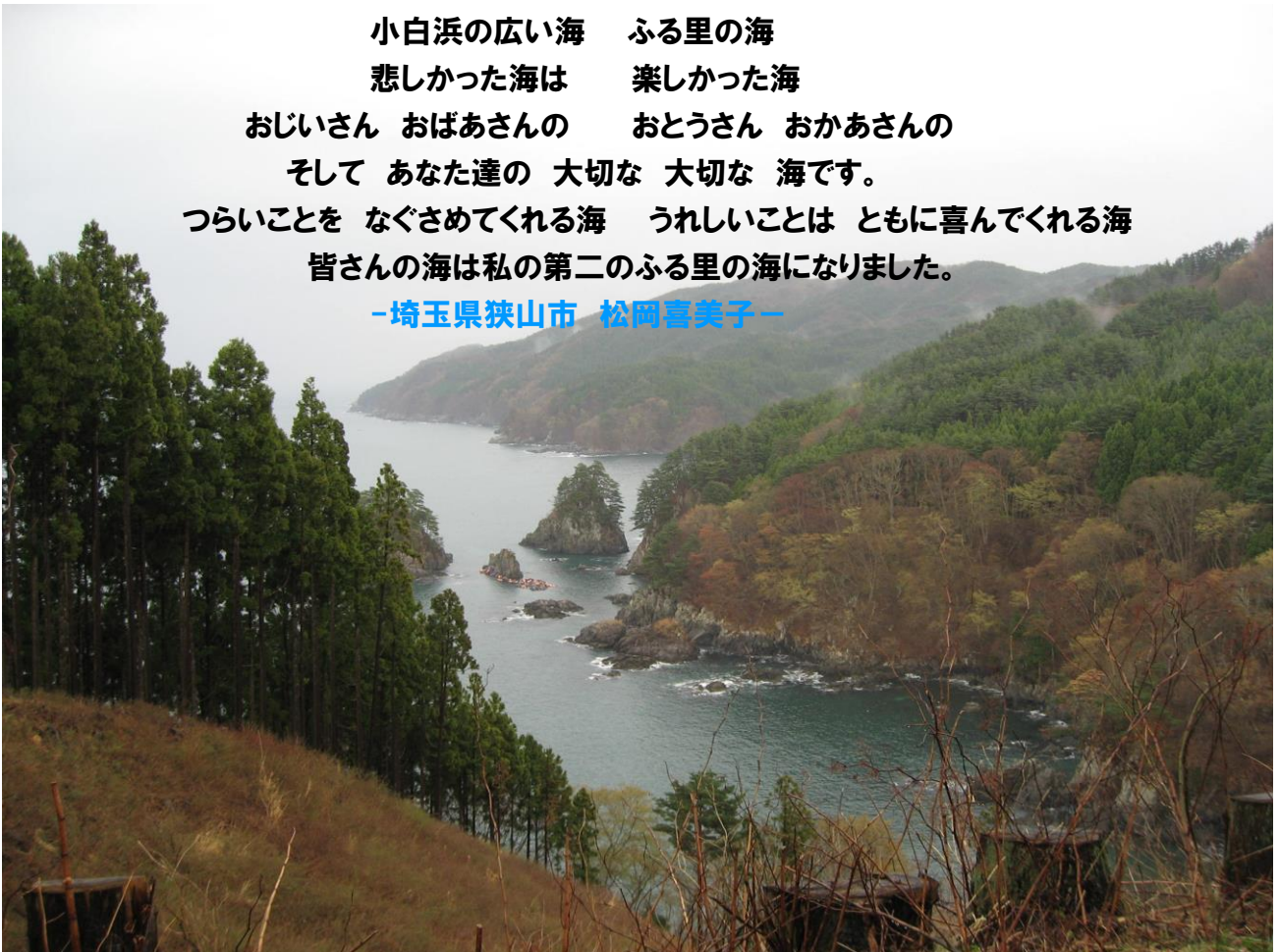
本郷の桜並木の写真を見ました。昭和8年に植えられた桜、毎年毎年沢山の人の思いを受け止めながら咲き続けたのですね。

明治6年創立の唐丹小、戦後の全国PTA新聞コンクールでは何度もさまざまな賞を受ける伝統校、「荒波時に寄るとも不屈の心ゆるぎなし」。唐丹中の校訓も「不撓不屈」、伝統に支えられた力で「幸福地」！「雷と空っ風」の群馬の片隅から、微力ながら応援しています。 **-群馬県高崎市 高木道子-**

唐丹小中のみなさんはじめ、被災したすべての子ども達が、今日より明日、明日よりあさって、と元気に、そして幸せになっていきますように、と心から祈っております。 **-神奈川県藤沢市 佐野久子-**

唐丹小学校のみなさんへ

小白浜の広い海 ふる里の海
悲しかった海は 楽しかった海
おじいさん おばあさんの おとうさん おかあさんの
そして あなた達の 大切な 大切な 海です。
つらいことを なくさめてくれる海 うれしいことは ともに喜んでくれる海
皆さんの海は私の第二のふる里の海になりました。
-埼玉県狭山市 松岡喜美子-



♪♪♪ 「一人の小さな手 何も出来ないけど

みんなが みんなが 集まれば

何かできる 何かできる」♪♪♪

そんな歌があります。老いた手ではありますが、私もそっとさしのべます。

—埼玉県春日部市 清原順子—

「唐丹の子ども達へ」

昨年3月11日、大地震と大津波のために、みなさんは大切な、大切なものをたくさん奪われてしまいました。それから1年。今年3月、私は、唐丹中学校の卒業式に参加し、唐丹小学校も訪問しました。その時、みなさんの明るい元気なすがたに接し、心が安らぎました。

でも、唐丹の浜辺や、釜石、大槌の海岸は津波に流されたままの姿でした。元に戻るのにこれからどれぐらいかかるのでしょうか。

『つなみ』という被災地のこども80人の作文集(「文芸春秋」8月号臨時増刊)を読みました。

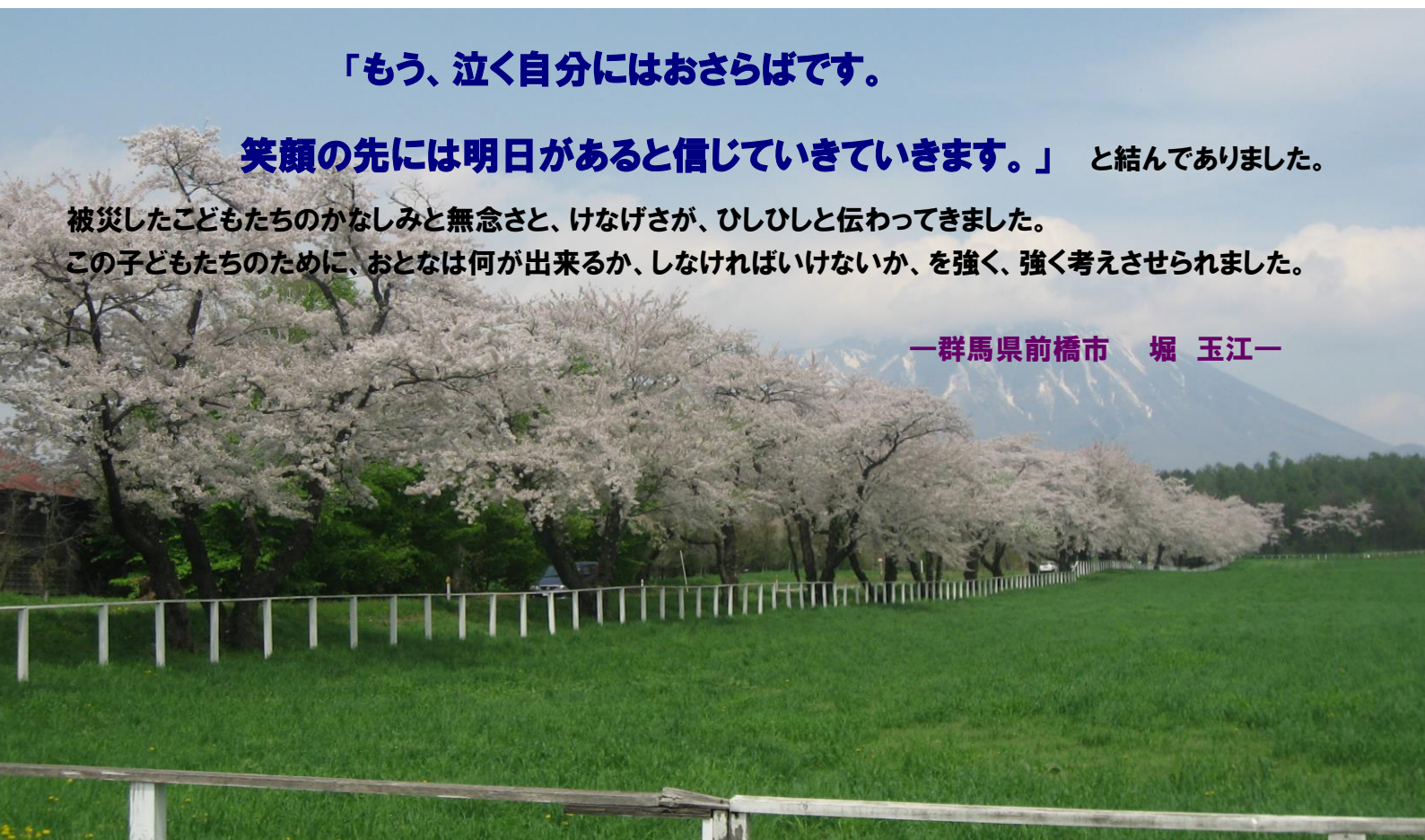
「もう、泣く自分にはおさらばです。

笑顔の先には明日があると信じていきていきます。」と結んでありました。

被災したこどもたちのかなしみと無念さと、けなげさが、ひしひしと伝わってきました。

この子どもたちのために、おとなは何が出来るか、しなければいけないか、を強く、強く考えさせられました。

—群馬県前橋市 堀 玉江—



唐丹の子どもたちへ

堀 泰雄（日本エスペラント学会理事）

群馬県前橋市大利根町 2-13-3

昨年の大震災では、唐丹も大津波にあって、本当に大変でしたね。私は、震災以来3回唐丹を訪問しましたが、皆さんが大震災にもめげず、元気にすごしているのにほっとしました。でも、きっと心の中では、おおきなものと闘っているのだと思います。負けないでくださいね。

昨年8月に、初めて唐丹へ行きました。中学校の藤館校長先生とお会いしたのですが、その時せんせい「修学旅行は出来ないと思っていたが、首都圏の唐丹出身者が旅行費用全額を負担すると申し出てくれたので、修学旅行ができるようになった」と言うのを聞いて本当に感激しました。涙が出てきました。それ以前に、すでに支援運動に参加はしていたのですが、それ以降もっと真剣に支援活動に取り組もうと決心しました。

高館さんは、震災の支援の輪を、外国にも広げたいと考えていたので、私は自分の生き甲斐の「国際共通語エスペラント」を使って支援することを考えました。9月にフランスに行ったので、募金もしてもらいましたが、私が一番うれしかったのは、フランス、マルセイユの小学校の子どもたちが、毎月、作品を唐丹小学校に送ってくれることでした。4月には「4月の魚」と言う作品がきました。まもなく5月の作品も来るでしょう。

こんな風に、皆が、今回の震災に心を痛め、自分なりの支援をしているのです。だから、「ひとりじゃない」と口で言ってるだけでなく、心で、そして実際の支援で、多くの方が被災地に、また、被災に向き合ってるのです。みなさんも、つらいことがたくさんあるでしょう。でも、本当に「ひとりではない」のです。震災から学び、震災の体験を生かし、皆と一緒に、唐丹の復興、東北の復興、日本の復興にがんばっていきましょう。私も、もう、老人ですが、がんばります。

【5月1日から5月31日までの支援者17名 通帳記載通りで掲載】

斉藤ツメ、齋 巖、村山代利子、松岡喜美子、右原君江、菊地定則、嶋田弥生、佐藤宗純、伊藤富美子、橋口成幸、内山武、高木健一、高木道子、高館千枝子、堀泰雄、藤本日出子、谷田裕子

【支援金振込先】 郵便口座 記号：18390 番号：13087781 高館千枝子宛

【お知らせ】

★ 「唐丹116名の子ども支援ツアー旅行」 **申し込み締め切り：6月18日（月）**

詳細はホームページを検索してご覧ください。 <http://www10.plala.or.jp/yasnoli/>

5月31日現在参加者12名。ふるって、参加ください。

(1)盛岡駅集合コース…5人募集してまます。

(2)釜石駅集合コース…募集人数の制限はありません。

問い合わせ先：堀 泰雄 tel/027-253-2524 高舘千枝子 tel/019-697-3851

★ 被災地は広い更地と所々に瓦礫の山があるだけです。小高い山際に仮設住宅、仮設店舗が小さくまとまって点在しています。

出来るだけ多くの方が現状を見て、何が出来るかを問う機会にしてほしいです。

EEC 唐丹希望基金2012

EEC 通信 25号

2012年5月31日発行